



花小だより

- すすんで学ぶ子
- 思いやりのある子
- 心も体もたくましい子

令和8年1月8日 第 760 号

謹 賀 新 年

校長 門倉 稔

新年となり、あらゆるものが新しく感じられ、今年がより良い一年となるよう決意を新たにしたところではないでしょうか。私たち職員も一丸となって、子供たちや保護者・地域の皆様にいっそう愛される花小として再スタートしたいと思います。引き続き本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

子供たち一人一人が、新年に際して、新たな目標を立てたところでしょうが、今日の始業式では、児童を代表して6年生の さんと3年生の 佐藤紡季 さんが3学期に向けてのすてきな決意を発表してくれました。ここでは、まもなく卒業を迎える最上級生、奈音さんのスピーチの内容を紹介します。

卒業までに頑張りたいこと 六年一組

今日から三学期が始まって、私たち六年生はいよいよ卒業が見えてきました。一学期の終わりに自分たちのクラスはどんなクラスに成長したのかを先生に聞かれました。私が出した答えは、「六年一組は、どんなことにも全力で取り組めるクラス」というものでした。その中でも私は「人との関わり」を意識して頑張ってきました。これまでのクラスの歩みを振り返ります。二学期、クラスや学年で頑張ってきたことの中で一番心に残っているのは、仲よし体育祭です。私は長縄に出ました。ふだんの練習から努力を重ねて、ただ跳ぶ、ただ回すだけでなく、仲間と声をかけ合うことを大切にしました。本番直前には、チームのメンバーで円陣を組んで心を一つにしました。また、六年生全員が応援も全力で頑張りました。みんなで声を合わせて応援をして、選手たちに想いを届けました。六年生みんなが全力で取り組んで良い結果を残すことができました。みんなで一つの目標に向かって頑張ることは簡単にはできません。仲体があつたからこそ、私たちは団結を深めることができました。そして、私たちは四月から中学校という新しいステージにふみ出します。中学生になるためには、まだ成長しなければいけないこともあります。勉強や運動はさらに大変になると思いますが、今、私たちができている「人との関わり」は続けて、もっと伸ばしていきたいと思っています。

「人との関わり」をより良くするために、まずできることはあいさつだと思います。あいさつを元氣よくすると、おたがいにいい気持ちになります。三学期は、もっと大きな声であいさつをして、最後まで下級生のお手本でいられるかっこいい六年生でいたいと思います。

午（うま）は、いにしえから「俊敏さ・勢い・成長・活発」を象徴する存在とされてきました。また、動物としての「馬」は、昔から移動手段や戦の要として重要な役割を担ってきた動物です。そのため午年は、以下のような意味をもつと云われています。



- ☆ 勢いが強くスピード感がある
- ☆ 行動力・決断力が高まる
- ☆ 変化が加速する
- ☆ 成長を後押しする
- ☆ 社会が活気づきやすい

さらに、午の文字は太陽が真上に昇った「正午」にも由来しており、陽気が最大限に高まる象徴と云われています。物事がピークに達しやすい年とも云われ、良くも悪くも「動きが激しい」のが午年の特徴だということです。

この3学期は、言い換えれば「令和8年度0学期」とも言える大切な3か月でもあります。2026年が午年にあやかって、大きく成長できる一年となるように、まずは力をためながら3学期をスタートさせていきましょう。